

ドーミエ、どう見える？—19世紀フランスの社会諷刺

オノレ・ドーミエ(1808-1879)は、独自のユーモアで19世紀フランスの社会を描き出した画家です。家族を養うために12歳から役人の使い走りや書店の店員として働き始めたドーミエは、仕事のかたわらで絵画を学び、当時最新の印刷技術だったリトグラフで新聞の挿絵を手がけるようになりました。1830年代には、国王ルイ＝フィリップと腐敗した王政政治の諷刺画で注目を集めるも、検閲の強化により1835年以降は社会風俗の諷刺に転向。名もなき市民の生活などをテーマに、日刊諷刺新聞『ル・シャリヴァリ』に4000点以上の絵を提供しました。

当館は2024年度に武蔵野美術大学名誉教授で彫刻家の田中栄作氏より、19-20世紀フランスの版画・雑誌265点を受贈しました。本展では新収蔵のドーミエ作品を中心に、同じく『ル・シャリヴァリ』で人気を博したポール・ガヴァルニ(1804-1866)の女性画や、当時のパリの景観図をあわせて展示します。

本展で紹介する作品は、水泳や鉄道旅行といったレジャーから、ジェンダーによる差別意識、万国博覧会とオーバーツーリズム、戦争まで、現代にも繋がるテーマを内包しています。200年後を生きる私たちの目に、ドーミエたちが描いた社会はどう見えるでしょうか？時代を超えたユーモアと深い洞察に満ちた諷刺の世界をお楽しみください。

【凡例】

- 作品情報は以下の順に記載。
作品番号、作者名、生没年、書籍／シリーズ名、シリーズ番号、詞書、刊行年、技法、寸法
- 寸法はmmで、リトグラフはイメージサイズ、銅版画はプレートサイズを記載。
- 支持体は全て紙。
- 所蔵は全て町田市立国際版画美術館。

1 シャルル・フィリポン(1800-1861)他(編)
『ル・シャリヴァリ』
1843年2月16日号
活版印刷、木口木版、リトグラフ
359×509

2～3 オノレ・ドーミエ(1808-1879)
『泳ぐ人たち』
1841、リトグラフ

2 《第19図》水泳の訓練。
この練習を欠かさず3カ月すれば、魚のように泳げることでしょ。どんな臆病者だって、恐れることなく行けますよ…中国風の浴場にね！
208×251

3 《第20図》女性たちの浴場。
ええ、奥様、申し上げた通りです。11か月妊娠していたのに、水腫だと思われていたんです。この子がまだ6歳だなんて誰が思うのでしょうか？父親似なんです。夫は第6連隊の鼓手長で、ラ・マルセイエーズを暗記して歌い、朝には小さな消防士のように一杯飲むんです。ああ！かわいい子、今すぐお母さんにキスしてくださいな。
184×263

4～7 オノレ・ドーミエ『泳ぐ女たち』
1847、リトグラフ

4 《第4図》2度の飛び込みの合間。
196×253

5 《第5図》ラブルドール夫人の最初のレッスン。
200×232

6 《第12図》川の中にて。190×259

7 《第13図》休憩室にて。190×251

8～12 オノレ・ドーミエ『鉄道』
1843、リトグラフ

8 《第3図》
「なあ、ルスタロ親父…こんな風に一日中腕を看板代わりにするのは少々退屈だと認めざるを得ないな！…」
「そんな話しないでくれ！…そのうえ風邪で頭がぼんやりしているんだ！鼻をかみたくなってからもう45分経つが…そんなことできないんだ、輸送の安全を損ねるかもしれないからね…最初に通りかかった旅人にこのお願いをしてみよう！…」
209×262

9 《第5図》30秒の停車。
ほら、ジョゼフ！…おまえに渡すものはこれで全部だ。小包3つと乗客ひとり。小包は特に丁寧に扱ってな！… 206×268

10 《第6図》パリからオルレアンへの愉快的な旅。
なんてこった、ずぶ濡れだ！…もう二度と、空がひどく曇っているときは屋根なしの車両には乗らないぞ！… 193×206

11 《第9図》旅行の印象と圧迫。
「おお、なんとということだ！みんな終わりがだ！」

「いやいや、単に列車が再び動き出しただけさ…機関車が前進するとき、乗客は後ろに行く…よく知られていることだ！」
197×264

12 《第16図》鉄道の大トンネルの入口。
皆さん、これから非常に狭い大トンネルに入ります…どうか、通過中は動かないでください…ここで腕や足、鼻を失わない旅はないのです…そして、長さが二里もある真っ暗な地下道で、それを見つけるのは不可能だということをご理解ください！…
194×262

13～15 ポール・ガヴァルニ(1804-1866)
『ロレットたち』
リトグラフ

13 《第15図》
「こどもにそんな口をきかせちゃだめよ、大間違いだわ、ほら我が娘よ！」
「ねえ、おばあちゃん、私たちうんざりしてるのよ！」
1841 199×156

14 《第41図》
「何を読んでいるの？」
『婦人の徳』よ
「病気にでもなったの？」
1843 199×155

15 《第46図》
「わたしの彼はブロンドなのよ…でもブロンドは好きじゃないの。あなたは栗毛が嫌いだよ。だったら取り替えましようよ。」
「厚かましい人ね！わたしの彼の部屋着は、サテンの総裏打ちだから、それは返してね…」
1843 198×152

16~23 オノレ・ドーミエ『青鞥派』
1844、リトグラフ

16 《第1図》

この鏡を使うと、ウエストが細くなり、胸がやせて見えるから不思議ね！…でも構わないわ…スタール夫人とビュフォン氏が言ったように…才能に性別は関係ないのだから。
230×180

17 《第3図》

じゃああなた、私は編集者のところへ出かけますからね…たぶん帰りは、随分と遅くなると思うわ…ドドールにあと2回、お粥を食べさせることを忘れないで…もしお腹を空かしているようならね…それと話は変わるけど…あれはベッドの下にありますから…
219×181

18 《第14図》

「いらいらするわ、びいびいとうるさい子ね、出ていきなさい！…私に安らいだ気分、母の頌歌をつくらせてちょうだいよ！…」
「大丈夫、大丈夫、…すぐに泣きやむよ…向こうの部屋へ連れて行って、皮ひもでせっかんとやる…」
(男性のわきざりふ)「わが妻の成したことなかで、なによりも社会に騒動を引き起こすのは、実はこいつだな！…」
224×187

19 《第16図》

「おい、おまえ、いい子だから…こっちへ来て、私の蝶ネクタイを結んでおくれよ！…」
「だから、男ってもんは！…自分たちの権利を乱用するのよね！ 私たち女性が“結婚”という絆を結ぶ弱さを一度見せたからって、永遠に彼らのネクタイを結ぶことになるだなんて！…でも私は決めたわ、まさに今朝の『ガゼット・デ・ファミリブル』紙にアルテミーズ・ジャビユトが執筆した素晴らしい記事、〈ネクタイの結び目とズボンのボタンをなくそう〉、そのなかで彼女が宣言した主義に、今後は従うことをね！」
222×188

20 《第24図》

ヴィルジニーがアカデミー・フランセーズの詩作部門で第7位を受賞してからというもの、毎週土曜日に洗濯女のところへ届ける洗い物を数えることが、私の仕事になってしまった…そう、国民軍隊長であるこの私の…ちゃんとこれをしないと女房が私をどやしつけるからやっているんだ！…
234×182

21 《第29図》

親愛なる人よ、入ってもいいかな！ 殿方との共同作業は終わったかい？
228×196

22 《第38図》

この新聞、私の作品を哀れだと書いている…今回も私はやはり理解されていないのね！…

227×184

23 《第39図》

何ですって！ 今朝もまた『ル・シャリヴァリ』に私たちの諷刺画が載っているですって！…ああ！ まったく！ 今度こそ最後であってほしいわ！ このドーミエをもしもとっつかまえられたなら、その時は、青い靴下〔青鞥派〕をツギハギだらけにしてくれた償いを、たっぷりしてもらいますからね。
218×191

24~35 オノレ・ドーミエ『万国博覧会』

1855、リトグラフ

24 《第12図》

「このクールベ氏ってのはあまりに下品な人間を描いている…こんなに醜い人なんか現実にはいない！…」 187×248

25 《第7図》 第一印象。一仰天、圧迫、窒息。

174×224

26 《第10図》

「この記念碑の上にいるのはモリエールだ…」
「いいや、これはラ・フォンテーヌだよ」
「Yes…泉の上のモリエールだ」
186×242

27 《第17図》 地方産。203×258

28 《第19図》

「ちょっとあなた、ここがビュッフェというところなの？…とってもうまそうだね、なんか食べようよ！…」 186×245

29 《第20図》

展示会場の眺め。晴れた日の午後3時、気温は38度！ 191×239

30 《第25図》

「アメリカ、男の肖像画の前でそんなに長いこと立ち止まるのはよくないよ…描かれている男が私じゃない時はね！…」
182×235

31 《第27図》 鐘部門にて。192×270

32 《第31図》

産業宮を見学しようとパリにやってきたお上りさんたちの、野外博覧会。197×258

33 《第31図》(番号重複)

「もう夜の7時だ。昼から泊まる場所を探しているっていうのに…オルレアンに帰ってぐっすり眠りたいよ！」 205×242

34 《第33図》

寝具でいっぱいになったアパルトマンの内部。195×257

35 《第34図》

美しい星空の下で寝る不愉快さからどうにか逃れたことで、イギリス人一家は四輪馬車のもてなしに感謝する(夜間料金、1時間につき2フラン50サンチーム)。
194×248

36~38 オノレ・ドーミエ

『日々のできごと』

リトグラフ

36 《第117図》

「あなたが遺言を書かなければならなかったのはもっともだ。だが、あなたの最後の願いを叶えようとしたせいで、私はこんなにも悪い状況に陥ってしまった…さあ、ピョートル大帝よ、これが私の受けた呪いだ！」
1854 211×262

37 《第146図》

「おおっと！…ヨーロッパを抱え込むなんて、間違いだった！…」
1855 193×243

38 《第59図》

「さあさあ、ブルジョワさん、早く起きてくれよ…あなたの番だよ、あなたの家を壊すんだよ！…」
1852 184×261

39~40

アルフレッド・カダール(1828-1875)他(編)
『腐蝕銅版画家協会集:近代の腐蝕銅版画』
エッチング

39 マクシム・ランヌ(1827-1886)

《第39図》 サン=ジェルマン大通り建設のための取り壊し(古きパリ)
1863 320×242

40 マクシム・ランヌ

《第199図》 エコル街建設のための取り壊し(古きパリ)
1865 237×318

41~43 アンリ・シャルパンティエ工社(編)

『その壮麗さにおけるパリ: 建造物、景観、歴史的場面、記述と歴史』
1861、リトグラフ

41 フィリップ・ブノワ(1813-1896)

《第6図》 ルーヴル、リヴォリ通り側の新しいファサード
357×244

42 オーブラン(生没年不詳)/フィリップ・ブノワ

《第14図》 リュクサンブル宮殿、公園側のファサード
235×371

43 フィリップ・ブノワ/

ウジェーヌ・シセリ(1813-1890)
《第28図》 産業宮、正面の入り口
238×358

特集展示 第II期

ドーミエ、どう見える？

—19世紀フランスの社会諷刺

企画: 高野詩織(当館学芸員)

発行日: 2025年6月20日

発行: 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都 町田市 原町田 4-28-1